

町制施行90周年記念事業「川棚を描こう」スケッチ大会

審査講評

小学校低学年、小学校高学年、中学校、高校生以上の4つの部門で審査を行いました。どの部門も力作ぞろいで、作品制作への意欲が感じられました。

各部門には、川棚町の自然や街並み、港、海、動物や史跡などをテーマに、効果的な構図や画面構成を考え、工夫しながら表現されている作品が多く嬉しく思いました。

小学校低学年は、てらいもなくのびのびと明るい色調で描かれている作品が印象に残りました。小学校高学年では、しっかりともものを見る力が高まり、モチーフをデフォルメーションして力強く表現した作品や、美しい色調で、ていねいに表現されている作品が目に残りました。中学生では、自分の目で捉えた身近な風景を、透視図法を用いて立体感や遠近感を効果的に表現しているところに好感が持てました。また、色遣いから感性の豊かさが感じられ、ていねいに制作している根気強さにも感心しました。高校生以上の作品では、穏やかで落ち着いた色調ながらも、画題に迫るエナジーが感じられる作品が多く、制作への豊かな経験を感じました。特に、この部門の上位作品は、構図の捉え方、色遣い、筆遣いのレベルが高く、作品の質を高める明確な意図が感じられ、心を動かされました。

なお、出品作品の中には、表現力は優れているもののスケッチ大会の趣旨から逸れたテーマや内容になっている作品があり、もったいなく思いました。

時間をかけて審査を行いました。どの作品からも「川棚町の美しい自然やまちの豊かさ」を表現する熱意が伝わってきました。生涯学習の視点からすれば、このような文化の香りに触れながら過ごす日常は、心に潤いを与えてくれます。これからもみなさんが「ふるさと川棚町への思い」を大切にされながら、「まち」とともに心豊かな日々を過ごされることを願ってやみません。

審査員 松尾 武則
妻夫木敏明